



## 「見たり、聞いたり、探ったり」No.217

通算 No.369

青木行雄

### 時代を見つめて

### 第23回冬季オリンピック競技について

「<sup>ピョンチャン</sup>平昌大会」2018年(平成30年)2月9日～2月25日

この平昌大会は2018年2月25日夜、閉会式があり、いろいろな記録を残して17日間の幕を閉じた。

閉会式には、日本からは選手、役員ら約130人が参加した。韓国と北朝鮮の選手は一緒に入場した。国歌ぐるみのドーピングが認定されたロシアの処分解除は見送られ、選手らは「ロシアからの五輪選手(OAR)」として式に参加した。

平昌大会は7競技で史上最多の102種目が行われ、日本は13個(金4、銀5、銅4)のメダルを獲得した。我が国での開催だった1998年(平成10年)長野大会の10個を上回り、史上最多となったのはみでの通りである。

次の2022年、冬季大会は、中国の首都、北京で開催される。そして2020年7月からは東京で夏季大会が行われる。

各国・地域の旗が振られ入場して来た、フィギュアスケート男子金メダリストの羽生結弦選手(ANA)は閉会式で、各国選手に持ち上げられ馬上のかっこうで会場を眺め歩いた。

また閉会式には、地元の小学生たちが韓国の国旗とともに入場した後、伝統楽器の演奏と現代アーティストのパフォーマンスを融合させた演出で始まった。

コンセプトは「次代の波」「前進するチャレンジ精神」、大会組織委員会は「共存はもちろん、互いの違いを認め合う平和のメッセージも込めた」と説明した。

各国・地域の旗手が登場した後、選手たちが入場する。



※閉会式の会場雰囲気、まもなく聖火が消えた。



※閉会式の選手団入場風景。閉会式では総勢269名、選手に124名、本大会は冬季五輪史上最多の92ヶ国・地域から約2,900人の選手が参加した。

日本は主将の小平奈緒選手が旗手を務めた、韓国と北朝鮮は一緒に南北合同の旗を振りながらの入場である。

開幕前から「平和」を演じたい韓国や国際五輪委員会 (IOC) の思惑が先行し、出場枠のない北朝鮮が参加するなど「政治主導」が叫ばれた大会は、欧米の事情を優先した競技日程が選手に負担を強いるケースも目立った。史上最多13個のメダルを獲得した日本選手団の活躍で「スポーツの魅力」も印象づけたが、「選手第一」の実現は2年半後に迫った東京五輪でも課題である。

フィギュアスケート男子の羽生結弦選手(23)が2連覇を果たした2月17日のフリーを生放送したNHK総合は、関東地区で平均視聴率が33.9%(ビデオリサーチ調)をマーク、金メダルが決まった直後の瞬間最高視聴率は同地区で46.0%に達し、改めて熱狂の度合いが浮き彫りになった。

しかし、今大会のフィギュアは午前10時に開始したが米国のゴールデンタイムに合わせた時間だった。また、対照的に欧州に合わせたノルディックスキージャンプは午後9時半スタート、選手は極寒の中で競技した。スピードスケートも終了時間は午後10時を過ぎることが多かったという。IOCの収入源となる放映権料に配慮したといわれる。

IOCが公表した収益状況によると、2014年ソチ五輪、16年リオデジャネイロ五輪が開催された13年～16年の収益は計51億6,000万ドル(日本円で5,521億円)で過去最高だったようだ、内訳はテレビ放映権料が約8割を占めたという。最大の顧客は約51%の21億1,900万ドル(約2,267億円)の米国で、東京五輪でも米国で人気の競泳や体操は時間の影響を受けそうである。

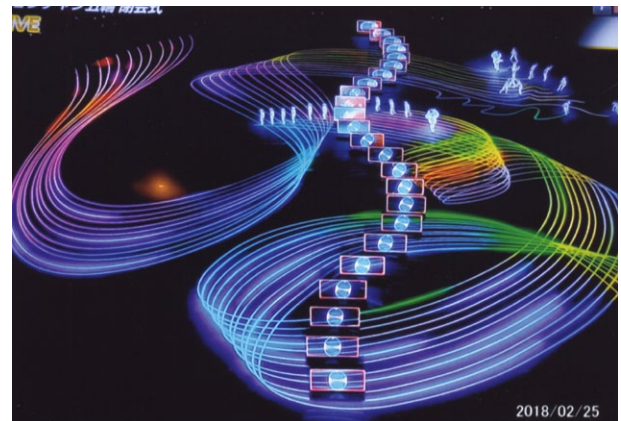
実際、08年北京五輪では競泳全種目や体操の団体総合などが午前決勝となった。選手は難しい調整を余儀なくされる。

公平・公正な舞台での競い合いがスポーツの原則だが、IOC自らがルールを曲げる場面もあったという。開幕直前にアイスホッケー女子の南北合同チーム結成を承認、さらに五輪後、バラハ会長が北朝鮮を訪問するとも報じられた。IOCが距離を置こうとしてきた政治によるスポーツ介入に自ら踏み出そうとしているようにも映る。

ロシアの組織的なドーピング問題も解決していない、「潔白」を証明した選手に参加の道を開いたが、すでに2人の違反が確定した。「選手第一」の舞台を整えるべきIOCが、平昌で示したこうした姿勢は「選手置き去り」とも取られかねない、2年半後に五輪を迎える「東京」にとっても大きな課題となるのは間違いない



※閉会式の会場風景、いろんな変化があった。



※閉会式の会場風景、色取り取りの色彩に感動した。

と、「産経新聞」の紙面にも書かれていた。

スポーツ報奨金について調べてみる。

この冬、冬季史上最多の13個もメダルを獲得した平昌五輪。日本五輪委員会(JOC)がメダリストに支払う報奨金は、金で500万円、銀で200万円、銅で100万円のようなのである。アルベールビル、バルセロナ両五輪が開かれた1992年(平成4年)から支給を始めたらしく、当初は最大300万円だったが、16年リオデジャネイロ五輪で現在の額に増額されたという。

日本スケート連盟は独自にJOCと同額を追加するらしい。金メダル2個の高木菜那選手(25)の場合、JOCと連盟から計2,000万円を受け取るようで、他に所属先の日本電産サンキョーが「4,000万円の報奨金を支給する」とテレビで見た、全日本スキー連盟も「額は未定だが支給する方向」といい、過去の五輪では最大300万円の支給実績があるという。

一方、日本カーリング協会には独自制度はなく、報奨金はJOC分のみのはずだったが、スポンサーの全国農業協同組合連合会(JA全農)が「メダル獲得なら米100俵」と決定した。銅メダルに輝いた選手には6トンの米が贈呈される。

全農所属の卓球、石川佳純選手(25)もリオ五輪で銅メダルを取り、米100俵を贈られている。

メダル獲得の状況について調べらる。

日本のメダル13個に過去最多で大いに沸いたが、世界では92ヶ国参加の内日本は11番目の成績であった、トップのノルウェーはメダル39個であり、さすがにスキー大国の名門と言える。自国開催の1994年(平成6年)リレハンメル、前回2014年(平成26年)ソチの両大会で獲得した26個を上回り、同国の冬季史上最多数となった。

ノルウェーはクラシカルとフリーの両走法で争う距離男子複合(30キロ)で表彰台を独占するなど、伝統的に強い雪上競技で12個の金メダルを獲得している。その他、スケート2種目を制し、金メダルは計14個、銀メダル数も14個、銅メダルは11個も獲得したのである。

ノルウェーには断続した取り組みが成果につながったようである。この責任者によると、大きな特徴は「子供に特定のスポーツだけをやらせない」ということ、スキーで言えば北欧の気候から雪と自然に親しむ環境がある。子供たちは遊びの延長で冬季スポーツを始め、夏の競技を含め、成長する中で自分に合った



※日本の選手団の入場。



※活躍した日本選手団の人達、感動ありがとう。

競技を選択していくらしい。

今大会は、そんな環境で育った若手が活躍している。例えば、スキージャンプ女子で高梨沙羅選手（クラレ）を破って同国初の同種目の金メダルを獲得したルンビ選手（23）は、過去にサッカーもやっており、今でも趣味程度でプレーするという。

2020年の東京五輪が目の前に近づいた感がある。2018年2月25日に「平昌」冬季五輪が閉幕したが、東京五輪への多くの教訓が話題になった。

まず大会の序盤に北朝鮮との「南北融和」にスポットが当たったものの、世界のトップアスリート達の躍動が政治色を脇に追いやった感がある。この平昌の五輪から、夏冬の違いはあるが2年後の東京五輪を引き継ぐことになる。この2020年の大会が平昌で良い教訓になってほしいと思う。

新聞の記事やテレビを通して見たことについて記してみる。

まず南北合同チームや合同行進などアツとおどろいた場面もあったが、IOCのトーマス・バッハ会長は記者会見でこの合同行進を誇らしげにメッセージを送ったという。

昨秋、北朝鮮のミサイル発射が相次ぎ、フランスなどが参加に懸念を表面する画面もあった。しかし、年明けに北朝鮮が参加への意思を表明し、韓国と北朝鮮が「南北融和」を演出すると、IOCはこの状況に乗ったかのようなのである。緊迫する朝鮮半島情勢を逆手に取り、「平和への架け橋」になりうるスポーツの価値をアピール。「IOCが出来ることはやった。これを弾みに政治での対話が進めて欲しい」とまで踏み込んだのである。

そして伸び悩んだチケット販売は各自治体に押しつける形で目標を上回る約107万枚が売れたという。五輪公園を訪れた人を含めると、約138万人に達したという。ボランティアの大量離脱や、ノロウイルスに300人強が感染するピンチもあったが、何とか乗り切ったという新聞記事もある。

韓国は目標に掲げた20個には届かなかったが、雪上競技で初メダルを手にするなど過去最多の17個と健闘した、そして、日本より4個も多い7位であった「メガネ先輩」の愛称で有名になり、カーリング女子で同国初の銀メダルに輝いた金ウンジョン選手は「関心を持つ人がたくさんできて幸せ」、最終日にカーリングを観戦した主脳は「五輪が成功するか心配だったが、選手の活躍で関心が大きかった」と発表。総事業費は、開発の遅れていた江原道を貫く高速鉄道KTXなどの建設費を含め、約14兆ウォン（約1兆3,800億円）に上るといふ。但し、大会後の「レガシー（遺産）」は明るい展望ばかりではない。維持費に年22億ウォン



※羽生結弦選手（23）の舞台姿、圧巻であった。



※羽生結弦選手（23）が仕事を仕上げた最後の姿。

(約2億14万円)の赤字が試算されるスケート会場などの3施設は後利用が決まらないらしい。KTXも、韓国鉄道公社の関係者は「赤字を見込んでいる」と明かした。20年前の長野五輪で使われたそり競技施設「スパイラル」は財政難のため、来年度から製氷が中止される。スケルトン男子で韓国選手が金メダルを獲得したものの、平昌は同じ轍を踏むリスクを抱えているという。

私は五輪に行って見たわけではないので実際にはわからないが、朝日新聞での紙面を見ると、平昌五輪での主なトラブルが目についたので記してみると、

- 1、開会式では観客を乗せるバスの本数が不足して長蛇の列が出来た。
- 2、ボランティア離脱があった、劣悪な生活環境に不満を訴えるなど、約2,000人が開幕前に大会を離脱があったという。
- 3、ノロウイルス猛威をふるう。選手、警備員ら300人超に感染が拡大した。
- 4、強風下で決行されたスノーボード女子スロープスタイルでは転倒者が続出した。
- 5、極寒、零下10度前後と夜間の雪上競技としては通常の気温でも、強風が重なったことで極寒となった。
- 6、目立つ空席、自治体や企業による団体購入も多く、雪上競技を中心に空席が目立ったという。

2年後の東京五輪を大変楽しみにしている一人だが、平昌の五輪、開会前は感心がうすく行って見たいと思わなかったが、開会して日が重なる度に行って見たいという感情がわいてきた。そしてメダルが増える度に感動が重なり、閉会式にはすっかり、トリコになってしまった。

開会式・閉会式共にあの画面はすばらしい映像で感動した人も多かったと思う。

2年後の東京五輪に向けて、この平昌の五輪を見据えながら、注意点を思いながら、考えて見た。

この平昌は極寒だったが、東京は8月酷暑対策をどうするのか、マラソンなどは大変ではなかったりする。寒いのは厚着をすれば良いが暑いのはそうはいかない。選手、観客共に熱中症の対策はどうか。

選手村からの輸送も、最初は会場も最小の範囲だったが大幅に広がった。そして、平昌は7競技102種だったというが、東京五輪の場合は33競技339種目あるといい史上最多になるらしい。このように夏季大会は規模に大差がある。また陸上・水泳など花形競技の会場が、東京五輪の場合、「分散型」となって、



※閉会式の言葉をのべる。



※閉会式で次回の北京市長に送る五輪の旗。

千葉、埼玉、神奈川、静岡などに広がってしまった。

平昌がテロのない五輪で幸いだったが東京五輪はこのテロ対策に不可欠な時代である。

会場の建設進行状況がテレビ・新聞に写るたびに、五輪への感心が高まって行くだろう。大いに期待したい。

平成30年3月11日記

参考資料

朝日新聞

産経新聞

日経新聞

NHK

日本テレビ等

**日本のメダル一覧**

<ul style="list-style-type: none"> <li>フィギュアスケート男子 羽生結弦</li> <li>スピードスケート女子 500m 小平奈緒</li> <li>スピードスケート女子 団体追い抜き 日本 (高木美、高木菜、 菊池、佐藤)</li> <li>スピードスケート 女子マスタート 高木菜那</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>スピードスケート 女子1500m 高木美帆</li> <li>スノーボード男子 ハーフパイプ 平野歩夢</li> <li>ノルディックスキー複合 個人ノーマルヒル 渡部暁斗</li> <li>スピードスケート女子 1000m 小平奈緒</li> <li>フィギュアスケート男子 宇野昌磨</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>フリースタイルスキー 男子モーグル 原大智</li> <li>ノルディックスキー ジャンプ女子 高梨沙羅</li> <li>スピードスケート 女子1000m 高木美帆</li> <li>カーリング女子 日本 (LS北見= 藤沢、吉田知、 鈴木、吉田夕、本橋)</li> </ul>
--	---	---

金 4      銀 5      銅 4

朝日新聞 2018年2月26日月曜日 朝刊

**日本選手メダリスト**

フィギュア男子  
羽生結弦

小平奈緒  
スピード女子500

高木菜那  
マスタート

高木菜那 佐藤綾乃  
高木美帆 菊池彩花  
女子追い抜き

銀 5

高木美帆  
女子1500

平野歩夢  
スノボ男子HP

渡部暁斗  
ノルディック複合NH

宇野昌磨  
フィギュア男子

小平奈緒 女子1000

銅 4

原大智  
男子モーグル

高梨沙羅  
ジャンプ女子

高木美帆 女子1000

吉田夕梨花 吉田知那美  
鈴木夕湖 藤沢五月  
本橋麻里  
カーリング女子

読売新聞 平成30年2月26日、月曜日版